

目的. 高校における家庭科教育の実状を把握し, 大学における家政学部のあり方を検討するために, 教育内容, 指導法, 教師など多方面から調査研究して, 家政学部のあり方を考察し, 学生指導の効果を高める基礎資料を得ることを目的とした。

方法. 大妻女子大学家政学部学生369名を対象として, 次の1, 2, 3についてアンケートを行なった。1. 高校における家庭科履修状況, および, 家庭科の授業をどのように感じていたかについて。2. 進路を家政学部と決定した理由, および, 女性の生き方について。3. 家庭科教師, および, 女教師一般に関することについて。

結果. 次のようなことについて知ることができた。

- ①. 高校家庭科の授業をどのように感じていたかについては, 大変好きだった, 11% 普通か 65% だった。また, 余り好きでなかった, 嫌いと感じていたものが 24% あり, その主な理由は, 家庭科の内容に興味がなかった, 家庭科の教師に熱意がないなどかあげられた。②. 本学学生か, どのような理由で進路を決定したかについては, 教師, 栄養士等の資格を得るためが多く, 次に, 高校家庭科の履修の不足を補うため, および, さらに深く勉強したいためかあげられた。③. 女性としてどのように生きたいかについては, ほとんどの学生か, 家庭に専念, または家庭を第一に考えている。④. 家庭科教師と女教師一般との比較については, 長所は, 細密性, 情緒性, 短所は, 感情的, 局所的, 利己的かともに同じ傾向を示しているか, さらに, 家庭科教師の長所として, 根気かあげられ, 女教師一般の長所との違いかみられた。